

がん登録 2020年症例報告

1.はじめに

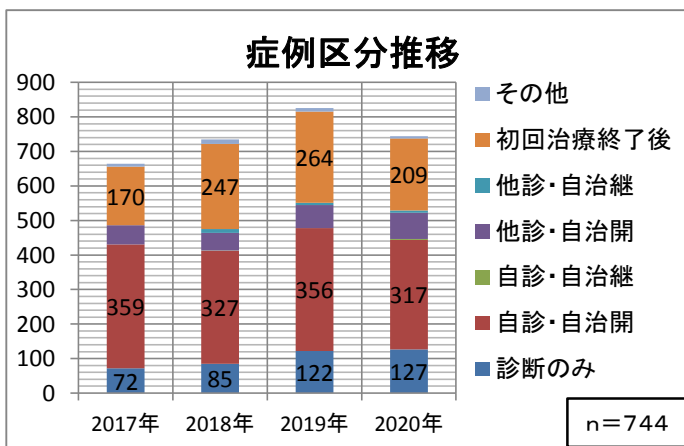
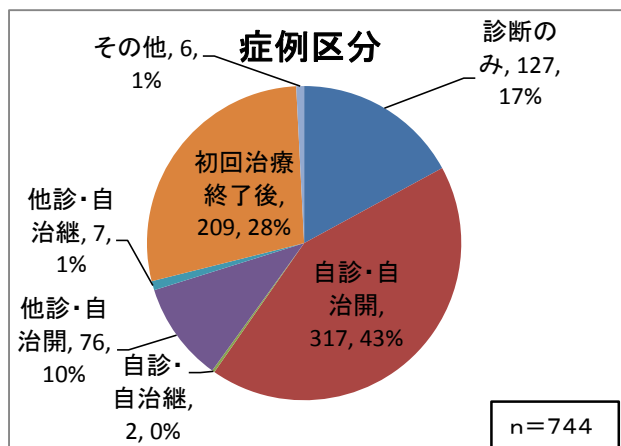
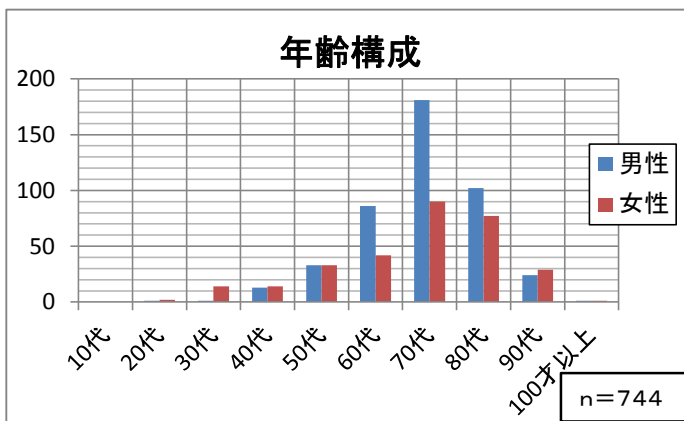
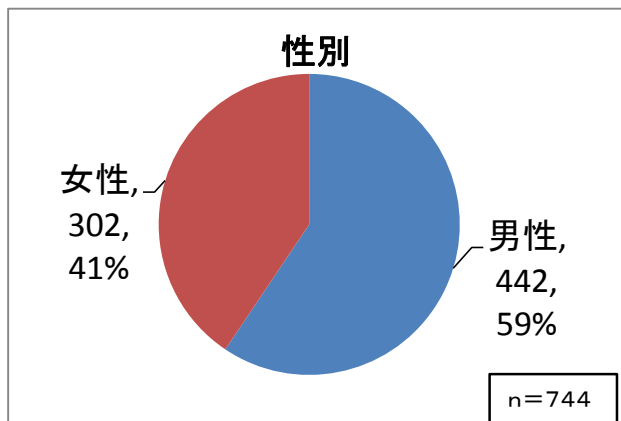
がん登録とは、国のがん対策の基礎となる、がん患者数、罹患率、生存率、治療効果などを把握することを目的に、がん治療のために病院を受診した患者さんの治療内容、治療効果、予後などの情報を集め、把握・分析する仕組みです。患者さんへの的確な情報提供や、次のがん対策のための基礎資料としてがん登録は必要不可欠なものです。国が指定する登録様式(がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式(2016年版修正版))に準拠して、院内がん登録を実施することが義務付けられています。

2. 集計表について

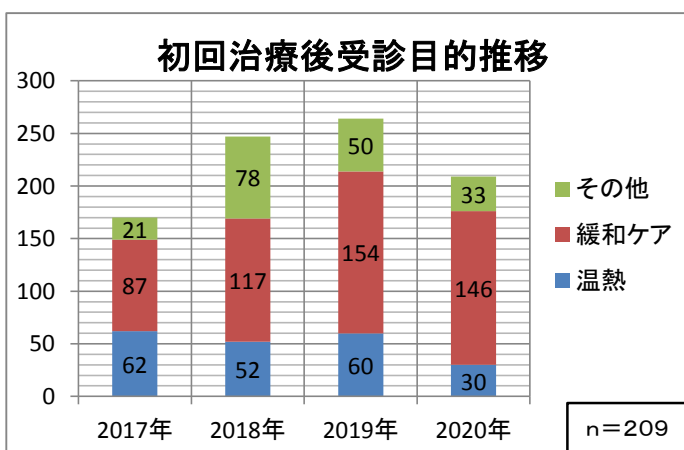
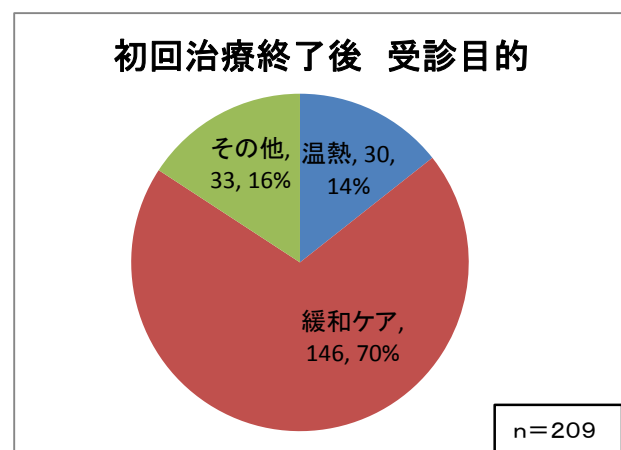
この集計表は、国が指定する登録様式に準拠して登録されたデータを使用して、JR広島病院の部位別のがんの件数や部位別のがんの拡がりごとの治療法を示しています。

院内がん登録標準登録様式 2016年版に基づき登録を行いました。

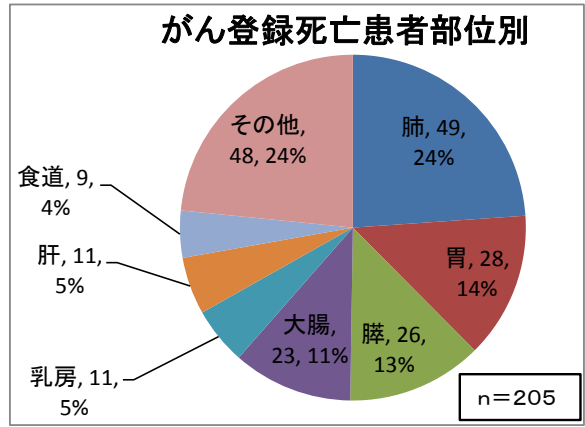
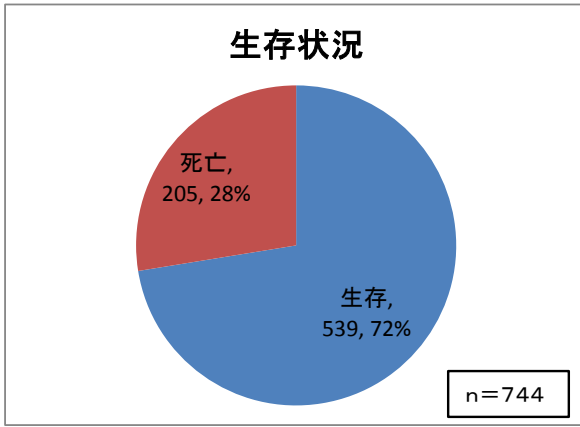
1腫瘍1登録、入院・外来を問わず、自施設において、当該腫瘍について初診し、診断及び/又は治療等の対象となった腫瘍です。



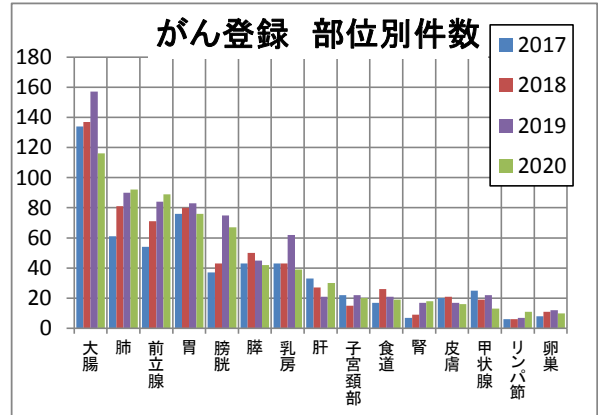
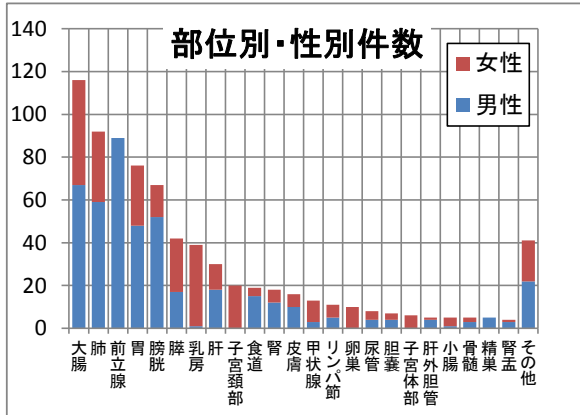
2019年症例と比較し、登録件数が減少したが、症例区分に大きな変化はない。初回治療終了後症例が多いことが特徴的である。



緩和ケア目的が年々増加傾向にあり、初回治療終了後の症例の7割を占めている。

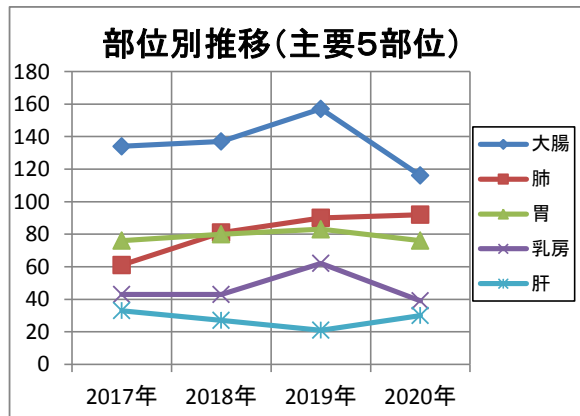
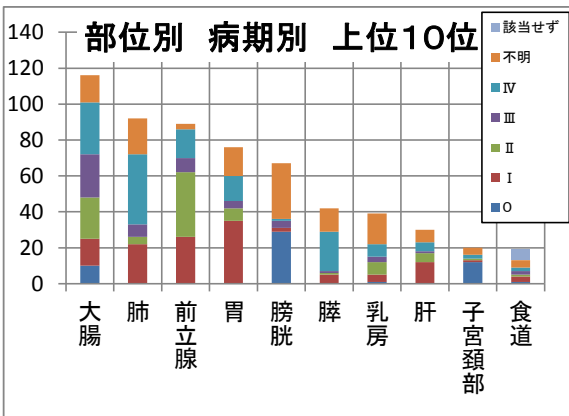


死亡患者部位別では、2019年症例と比較し大腸の順位は変動したが、主な死因に大きな変化がなかった。



肺がんと前立腺がんが増加傾向にある。膵がんも直近2年で増加している。

病期	病期							計
	0	I	II	III	IV	不明	該当せず	
1 大腸	10	15	23	24	29	15		116
2 肺		22	4	7	39	20		92
3 前立腺		26	36	8	16	3		89
4 胃		35	7	4	14	16		76
5 膵	29	2		4	1	31		67
6 肝		5	1	1	22	13		42
7 乳房	1	4	7	3	7	17		39
8 子宮頸部		12	5	1	5	7		30
9 食道	12	1	1		2	4		20
10 食道	1	3	1	2	2	4	6	19
総計	53	125	85	54	137	130	6	590



上位5位までの部位に変動はないが、大腸がんの件数が減少している。それぞれの病期構成に変化はなかった。

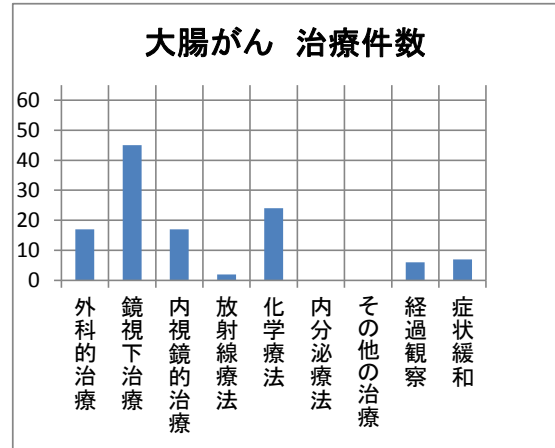
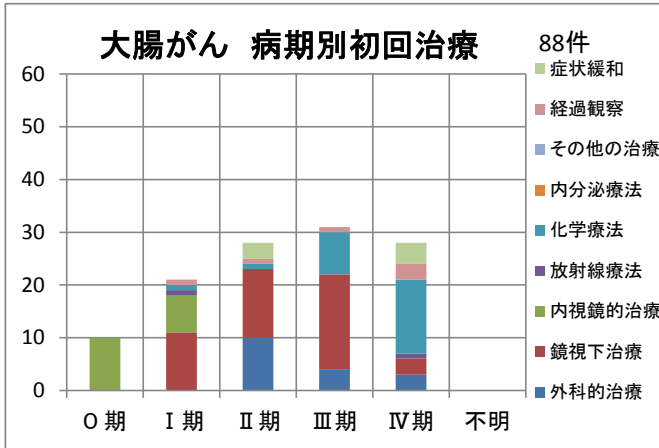
院内がん登録における治療の定義

当該腫瘍の縮小・切除を意図したがん組織に対する治療のうち、当該腫瘍に関する最初の診断に引き続き行われた、腫瘍に対する治療とします。

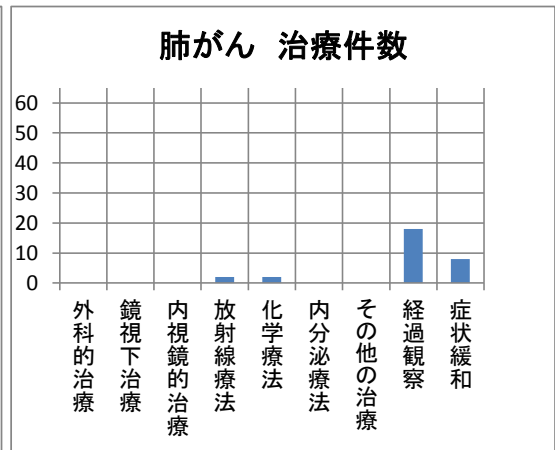
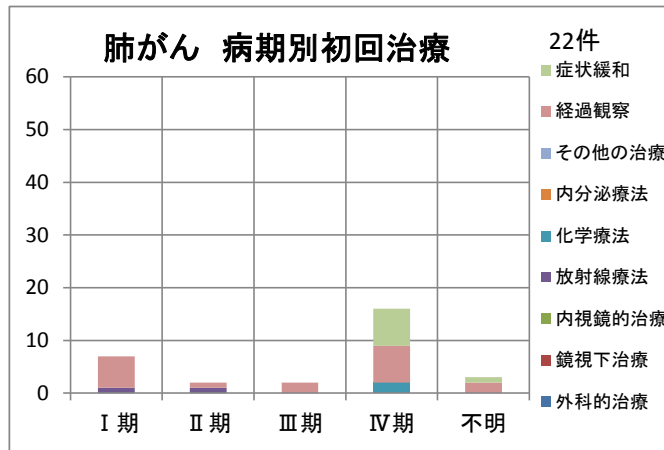
- ・外科的治療とは、開腹手術によるがんを切除する治療
- ・鏡視下治療とは、胸腔鏡下・腹腔鏡下手術によりがんを切除する治療
- ・内視鏡治療とは、体表に切開を全く加えることなく内視鏡下にごんを切除する治療

症例区分 自施設初回治療実施症例・病期別治療と治療件数

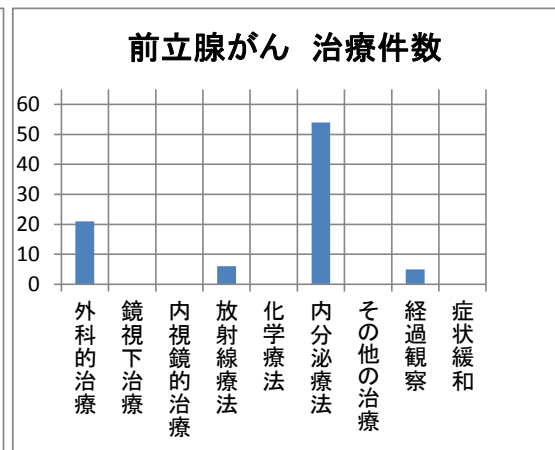
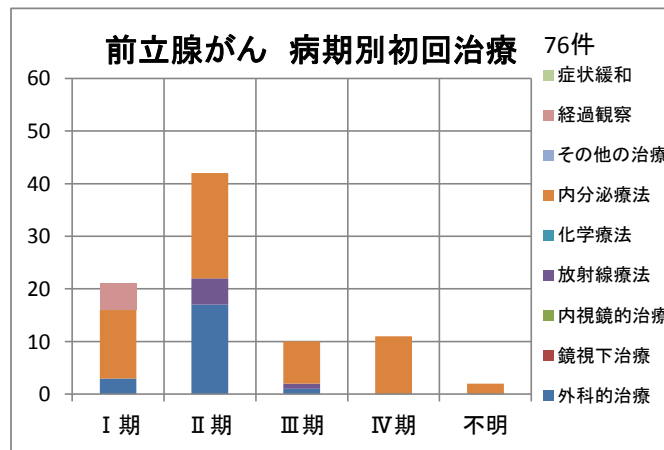
- ・全登録部位上位10位における「初回治療開始」「初回治療継続」症例
- ・複数の治療を組み合わせている場合もあるが、個別にカウントし集計



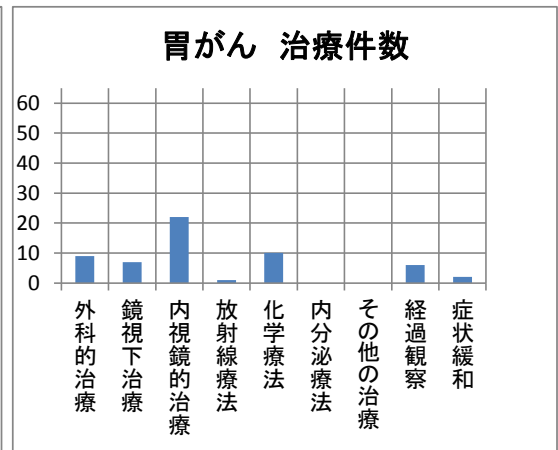
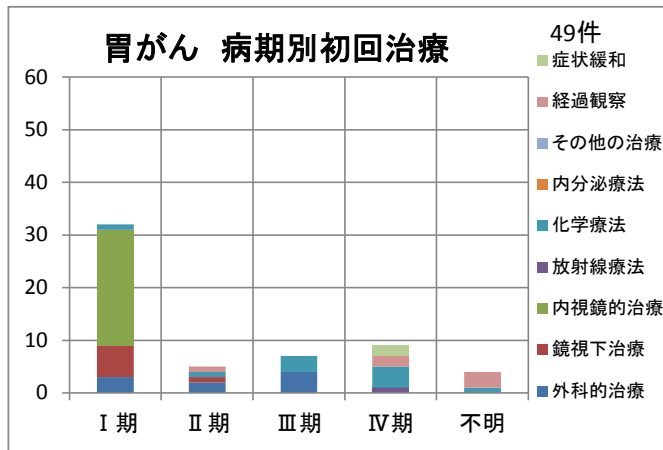
2019年症例同様、治療法に変化はないが、0期・II期症例が減少している。



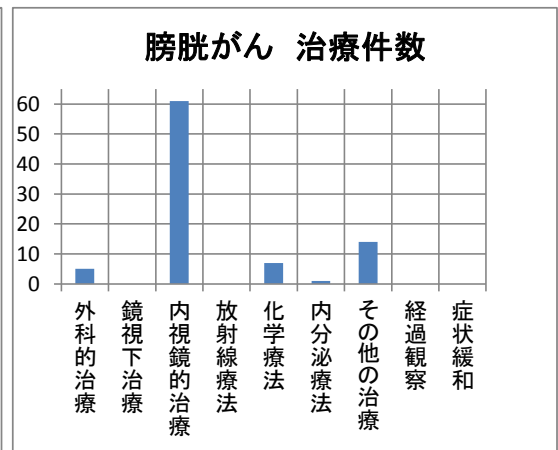
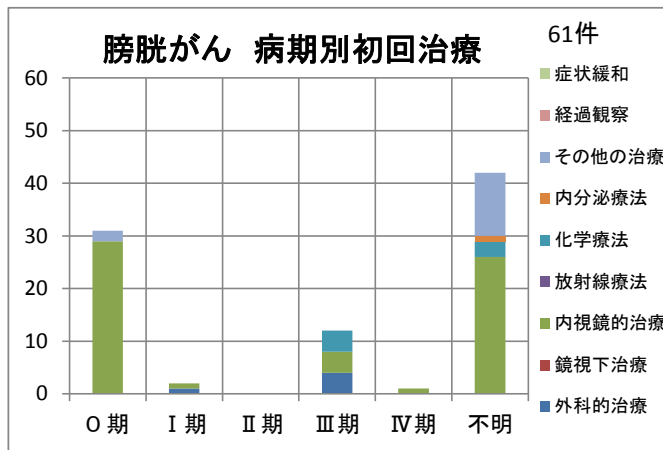
当院では、呼吸器外科手術を行っておらず、切除不能肺がんの化学療法・HPRACでの放射線療法を受ける患者の窓口である。年齢や患者の希望等を考慮し 経過観察の件数が多い。



がん登録のルール上、「去勢術」は、内分泌療法に含まれる。2019年症例に比べ I 期が減少し II 期が増加している。主な治療法は内分泌療法である。

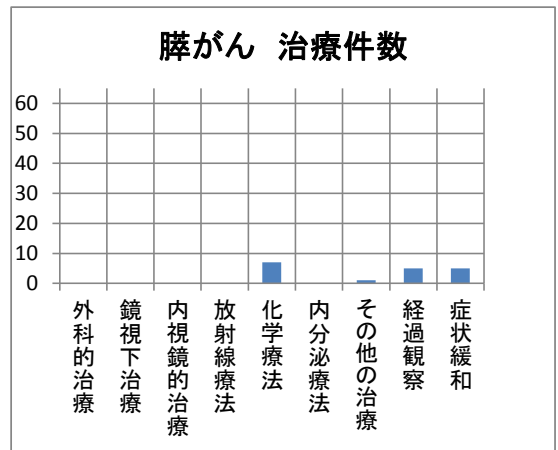
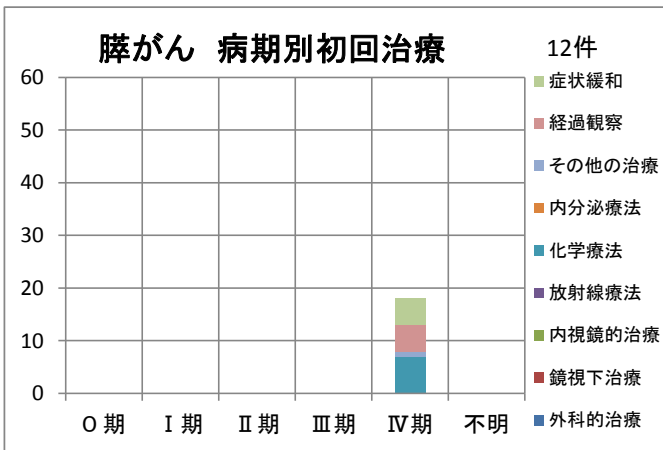


2019年症例に比べ、Ⅲ期の件数が増加しⅣ期が減少している。Ⅳ期では非観血的治療のみ行っている。



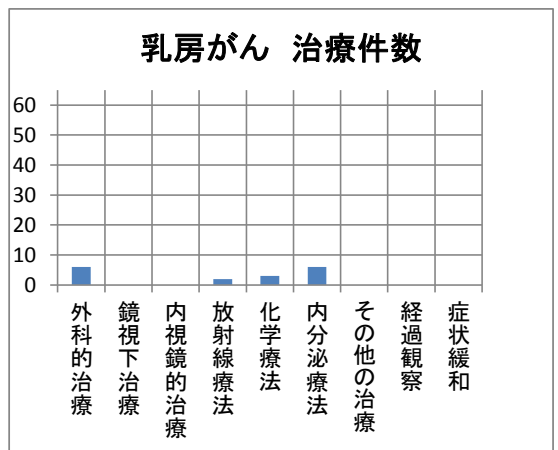
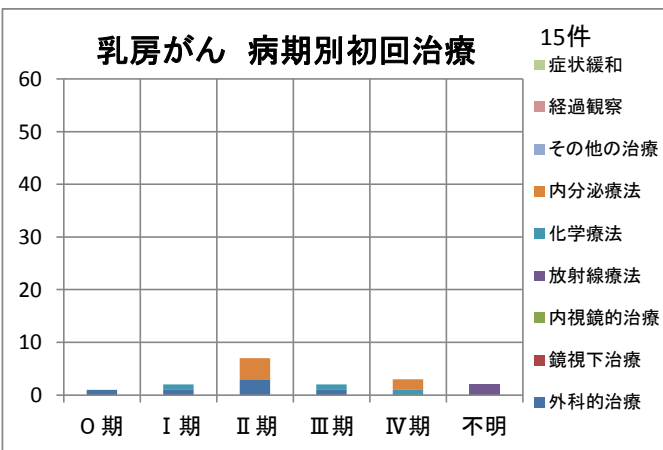
がん登録のルール上、「pTa」以外では「pTX(情報なし)」をつけることになっているため、結果として病期不明となる。

2019年症例では、鏡視下の治療・放射線療法を行っていたが、今回は行った症例がなかった。

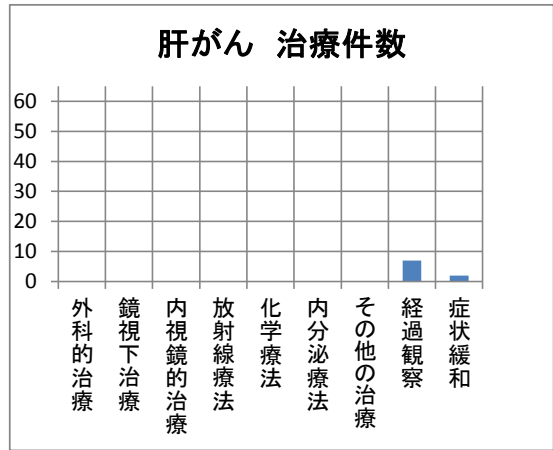
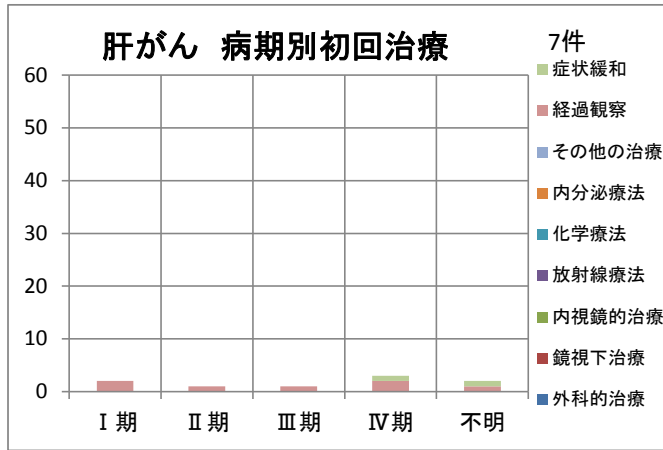


当院では診断後、主に高次医療機関に紹介している。

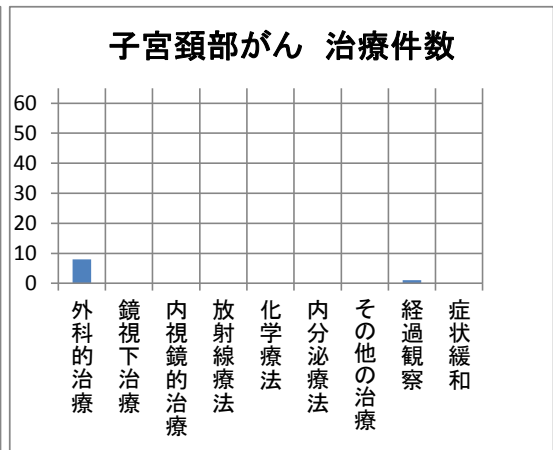
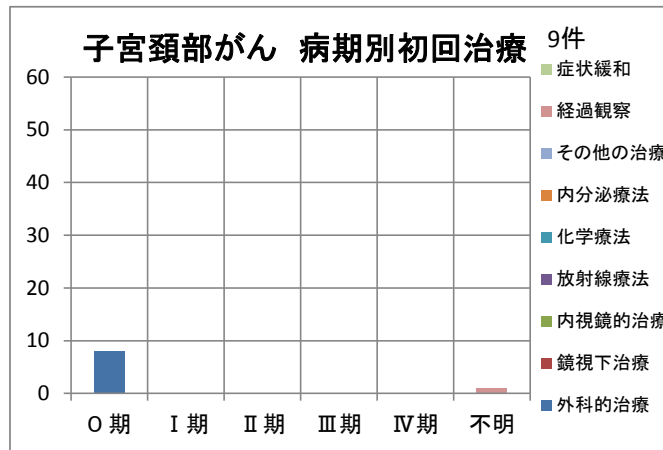
Ⅳ期に対し、化学療法・経過観察および緩和ケアを行っている。



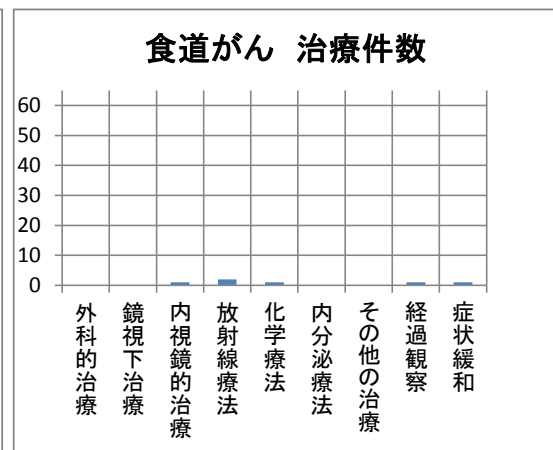
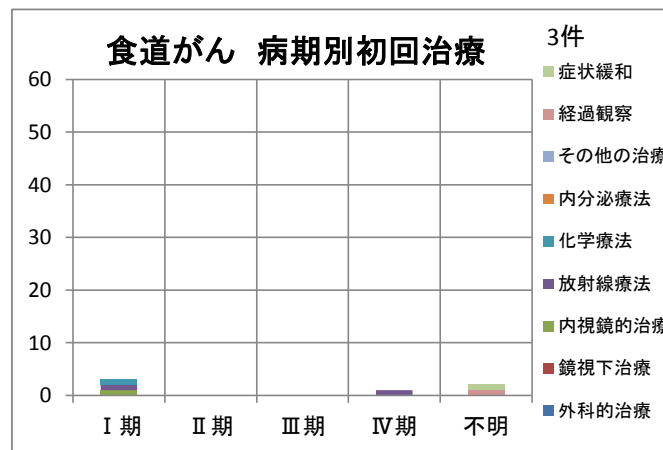
当院では、診断時にリンパ節転移を伴っており、Ⅱ期の件数が多い。



当院では診断後、主に高次医療機関に紹介している。
当院で治療を開始した症例の主な治療方法は経過観察である。



がん登録のルール上、「円錐切除術」は外科的治療に含まれる。
高度な医療が必要な場合や患者の希望により、高次医療機関に紹介している。



必要に応じ、高次医療機関に紹介している。症例により、I期から観血的治療と非観血的治療を組み合わせた治療を行っている。